

平成31年4月16日

都中音研4月常任理事会資料

会長挨拶・連絡

東京都中学校音楽教育研究会
会 長 角 康 宏
(葛飾区立青戸中学校長)

平成も残すところあと14日間となりました。新元号令和の時代の幕開けと共に、都中音研といたしましても、新たなスタートを切っていきたいと思っています。昨年度中は、各地区、会員の皆様方の支えの下、すべての事業を無事終了することが出来ました。厚く御礼申し上げます。

そして本年度は、全国大会東京大会が開催されます。本大会の成功に向けて、都中音研が主体となり研究発表や運営の準備に鋭意当たっていく所存でございます。各地区、会員の皆様方のご理解と御協力につきまして、重ねてお願い申し上げます。

東京都中学校音楽教育研究会 平成31年度 基本方針

1 令和元年度全日本音楽教育研究会全国大会東京大会（総合大会）－全日本音楽教育研究会発足50周年記念－の開催に向けて

本年度は、いよいよ全日音東京大会が開催される年度となりました。今回の大会は、総合大会となりますので、小学校、中学校、高等学校、大学、特別支援学校が第1日目の令和元年10月31日（木）に各部会大会を開催し、翌11月1日（金）に全体会を練馬文化センターに於いて開催いたします。

中学校部会では、府中の森芸術劇場を会場として「歌唱（合唱）」「歌唱（日本の伝統的な歌唱）」「鑑賞」「器楽」「創作」の5つの公開授業と、山崎朋子先生の「合唱」、野本由紀夫先生の「鑑賞」、後藤洋先生の「創作」の3つのワークショップを開催いたします。

東京大会の開催に当たっては、本研究会の授業研究部が主体となり、1日目の中学校部会大会の準備を進めています。また運営に当たっては、現在事務局が実施要項を作成し、検討を重ねているところではございますが、当日の運営に関しては、全国からの多数の参観者に対応するために、各地区理事並びに会員の皆様方に御協力をお願いすることになるかと存じますので、その節は是非とも御協力を宜しくお願い申し上げます。

そして、本大会を成功に導くのは、何よりも東京都中学校音楽科教員の積極的な参加に尽きると思います。是非年度当初の内に大会が開催される2日間の日程を所属の管理職に伝えたり、所属学年教員に理解を得たりするなどして出張等の手筈を整えておくことが重要となります。東京都公立中学校617校、771名の音楽科教員の力を集約して、令和元年全日本音楽教育研究会全国大会東京大会を成功させたいと心から願っております。各会員の皆様方のご理解と御協力につきましてどうぞ宜しくお願い申し上げます。

2 研究主題及び基本方針

平成31年度 東京都中学校音楽教育研究会

研究主題「つなげよう 深めよう 生かそう 音楽の学びを～音楽の力を実感・共有～」

(1) 主題設定の理由

私たちは今、果てない技術革新やグローバル化の大きな進展等の影響で、歴史上かつて例を見ない大きな変革の中にある。社会の加速度的な変化に伴い、将来の予測をすることはこれまで以上に困難とされている。このような時代・社会を生き抜く力として子供たちに育成すべきものは「自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となる」ために必要な力である。

学校教育においては、社会で自立的に生きるために必要な資質・能力を具体化し、確実に身に付けていくことが求められている。音楽科も音楽の授業の中に留まらず「社会に開かれた教育課程」の一翼を担う必要がある。見えない未来を恐れるのではなく、恐れられないだけの質的な豊かさをもって主体的に未来を切り拓き、明日の価値を生み出していく音楽の学習を構築したい、と考えるのである。

こうした音楽の学習を実現するには、教科等の横断的な学習や校種間の接続を図ることも重要である。小・中・高・大それぞれの校種においてこれまで研究してきた成果を踏まえ、子供の学びをつなげ、彼らがよりよい社会と幸福な人生の創り手となる力を身に付けられるように音楽科の授業がどうあるべきか、その改善と充実を図ることが期待されているのである。

そこで、本年度の研究主題を「つなげよう 深めよう 生かそう 音楽の学びを～音楽の力を実感・共有～」と設定した。

“つなげよう”には、音楽とのつながり、学びのつながり（小中高の系統性、連続性、題材間）人とのつながり（児童、生徒同士、児童・生徒と教師、地域・社会・世界）歴史・文化（我が国の音楽、世界の音楽）そして過去とつながり未来へつなげるという意味がある。

“深めよう”には、学習を通して、表現・鑑賞の深まり、心情の深まり、技能の高まり、そしてすべての“つながり”を一層深めるという意味がある。また人との信頼関係、達成感や喜びの共有化なども深めてほしいという願いがある。

“生かそう”には、学習で学んだことを次の学びに生かす、音楽の学習を自分自身の生活に 地域に社会に 世界に生かす、そして未来に生かす、という意味がある。

そして、つなげ、深め、生かす音楽の力を子どもたちが実感し、共有できる姿を目指す生徒像として掲げるために～音楽の力を実感・共有～という副主題を設定した。

(2) 基本方針

【基本方針1 授業研究】

令和元年全日本音楽教育研究会全国大会・東京大会の開催に向けて、都中音研授業研究部として、音楽科授業の質的な充実を目指し、研究活動・準備活動の推進を強化します。

ア 授業研究部の活動内容を地区理事が各地区教研に於いて伝達周知するとともにホームページを活用し全会員に広く公開します。

イ 1年毎に重点項目を設定し、事前研究、実技研修、研究講座、授業研究、研究授業などを通して、重点的に音楽科授業研究を行い、課題解決に臨みます。

ウ 令和元年10月31日（木）に「全日本音楽教育研究会全国大会東京大会中学校部会大会」を府中の森芸術劇場にて開催します。

【基本方針2人材育成】

授業研究と専門研修の企画推進に努め、研究、研修参加者の拡大を図り、計画的な研究体制の構築と都中音研の活動を支える人材確保に努めます。

ア 研究の中心となり、授業研究などのリーダーとなれる授業研究部員を拡大・育成するとともに、東京都教職員研修センターと連携し「基礎講座」を開催し、若手・中堅教員の授業力向上を図ります。

イ ホームページや会報誌「ストレッタ」を活用し、授業研究や専門研修の情報発信を積極的に行い、研究活動の充実と成果の拡大を目指します。

ウ 東京都教職員研修センターとの連携を通し、指導や支援を得ながら研究会の内容向上を目指します。

【基本方針3他音研との連携】

令和元年度全日本音楽教育研究会全国大会・東京大会の開催に向けて、他の音研と綿密に連携しながら、準備活動を推進します。

ア 全国大会・東京大会実行委員会に常任理事を選出し、都小、高、大各部会との連携を進め、連続性・系統性のある研究を推進します。

イ 全国大会東京大会に参加し、大会での情報や研究内容を今後の研究に活かします。

以上3つの基本方針を本研究会活動の要とし、今年度の事業を更に発展・充実させていきます。会員の皆様方とともに子供たちのための研究を更に深めていきたいと思っておりますのでご理解、ご協力をどうぞよろしくお願い申し上げます。

【予定】

(1) 平成31年4月24日（水）全日音研東京大会企画会（練馬ココネリ）

(2) 平成31年4月25日（木）都小音研総会・研究発表会（世田谷区立文京西小）

午後1時40分から 志民調査官の講演有り

(3) 令和元年5月9日（木）都中音研常任理事会